

## 区史及び巻の名称について

### 1 区史の名称について

候補：「港区史」

【理由】

- ・シンプルに「港区史」とすることで、区民が愛着を持ち身近に感じられる名称とするため。
- ・「港区史」とすることで、「港区史（昭和35年刊行）」以来の全編書き起こしとなることが明確になるため。
- ・編さんしている区史を基本として、港区の新たな歴史を積み重ね、後世に語り継いでいくため。
- ・「市川市史」「相模原市史」「仙台市史」「鹿沼市史」が旧市史と同じタイトルを用いています。その理由は、「新等」の名称にすることで既刊の自治体史に古いというイメージがついてしまうことや、今後も新たに自治体史を編さんする可能性があるため、ということでした。

※他の候補：「新港区史」

#### <参考1>新修港区史の名称について

現代史の流れのなかに、港区誕生以後の状況をたどり、その実情を究明し後に残すことに重点をおき、新たに編さんし直したことから、タイトルに「新修」を付け、「新修港区史」としました。

#### <参考2> 他区（市）史の名称について

	文京区	葛飾区	羽村市	八王子市	市川市
最新の名称	文京区史	葛飾区史	羽村市史	新八王子市史	市川市史
過去の名称 ※（）は刊行年	文京区史（昭和42年）、文京区志（昭和31年）	葛飾区史（昭和45年）、新修葛飾区史（昭和36年）	羽村町史（昭和49年）	八王子市史（昭和38～43年）	市川市史（昭和46～49年）
編さん方法	刊行済みの区史の続編	刊行済みの区史の続編	全編書き起こし	全編書き起こし	全編書き起こし
刊行年（完結年）	平成29年度	平成29年度	平成33年度	平成28年度	平成33年度

### 2 図説版の名称について

候補：図説 港区の歴史

【理由】

- ・（仮称）新・港区史と棲み分けで「港区の歴史」とし、図版や写真を多用した、分かりやすい区史をコンセプトにしているため。
- ・歴史書の図録は、通常「図説」という言葉を用いているため。

※他の候補：「ビジュアル 港区の歴史」

### 3 巻の名称について

- ・通史編1 原始・古代・中世（通巻1）
- ・通史編2 近世 上（通巻2）
- ・通史編3 近世 下（通巻3）
- ・通史編4 近代 上（通巻4）
- ・通史編5 近代 下（通巻5）
- ・通史編6 現代 上（通巻6）
- ・通史編7 現代 中（通巻7）
- ・通史編8 現代 下（通巻8）
- ・資料編1（通巻9）
- ・資料編2（通巻10）
- ・自然編（通巻11）
- ・図説版（通巻12）  
（名称は2で決定したものとする。）

#### 【理由】

図書館等での配架や検索のしやすさから、本編及び資料編には通番を振り、同時代で2巻以上になる場合は、番号を振ると通番と混同する恐れがあることから、上・(中)・下で表現したため。

#### <参考1> これまでの港区史

- ・港区史（昭和35年刊行） 上・下巻
- ・新修港区史（昭和54年刊行） 1冊のみ（付図あり）

#### <参考2> 区史配架時のイメージ

※cmは概算。紙の仕様により多少前後する場合があります。

